

『なぜ、日本の水ビジネスは世界で勝てないのか』 ISBN:978-4-526-06611-5 (初版1刷) 正誤表  
 (本書内に誤記がありました。お詫びして訂正致します。)

頁	箇所	誤	正
P73	本文9行目～13行目	<p>こうして、上下水道事業者が高度処理のための対策を講じるようになったが、同じ水系を利用する事業者がバラバラに活動しては、品質のばらつきや投資の重複などで非効率が生じやすい。そこで淀川流域では、1965年に淀川を水源とする7つの水道事業者が「淀川水質協議会」を発足させ、水源水質を共同で監視する体制を作ってきた(図表3-2-7)。</p>	<p>こうして、上下水道事業者が高度処理のための対策を講じるようになった。しかし一般的には、同じ水系を利用する事業者がバラバラに活動しては、品質のばらつきや投資の重複等で非効率が生じやすいという課題がある。</p> <p>淀川流域では、周辺地域の急速な開発によって淀川の水質が急激に悪化したことを受け、1965年に淀川を水源とする7つの水道事業者が水質保全を主な目的に「淀川水質協議会」を発足させ、水源水質を共同で監視する体制を作ってきた(図表3-2-7)。</p>
P73	本文15行目	淀川水系に位置する6500の事業所	淀川水系に位置する11,000の事業所
P177	著者略歴	田嶋 亭基 (たじま こうき)	田嶋 亨基 (たじま こうき)
P178	著者略歴	中村 康朋 (なかむら やすくに)	中村 康朋 (なかむら やすとも)